

是は源俊長歌萬葉にうけらが花とよめる歌どもをひらけぬと意得られけるなめり、此卷萬葉集

四にうけらが花とよめる歌みな色に出るをかりて、其如く色に出などよめり、本草の諸説も

さきながらひらけぬ意見えず、

〔うけらが花序〕此集の名は、さきつとしみやこのやむごとなきわたりより、うし千蔭のよみおか

れたるうたをまゐらせよと有しに、えりてまゐらせらるる時、花數ならぬうけらさへつまる

る世にあひぬるよしを、よみ出られしより、みづからうけらがはなと、名をおほせられたる也けり

〔武江産物志藥草〕道灌山ノ産 蒼朮落合ニモアリ

〔多識編二〕三七、今案美豆與豆波久佐、又云耶麻宇流志、異名山漆綱目金不換

〔書言字考節用集六〕三七時珍云、人言其葉左三右四故名、蓋恐不

〔和漢三才圖會九十二末〕三七 山漆 金不換

按三七血分之藥、人皆所識也、又養金魚、如將死時、揉山漆葉入汁於魚口、即活、故魚池傍必植之、無名

瘡癩、按葉敷之、

〔重修本草綱目啓蒙七〕三七 一名血見愁醫便同

二種アリ、集解初ニ説トコロノモノハ、廣州ノ産ニシテ、他ノ寒地ニハ無シ、故ニ其苗狀ヲ詳ニ著

ス、即物理小識ニ言フトコロ、廣西四種錦地羅、三七、猪腰子、山羊血、妙藥ノ一也、和産未ダ詳ナラズ、此根昔年

舶來アリ、今藥舖ニ持傳フルモノ稀ニアリ、皆陳久ニシテ、蛙損多シ、ソノ形甚ダ節參フシシニ似タリ、長

サ一二寸、粗アリ細アリ、皆味甘苦、時珍説トコロ、如老乾地黃、有節、味微甘而苦、頗似人參之味、ト云

フ文ニ符ス、ソノ中稀ニ直根ナルモノアリ、圓根ナルモノアリ、ソノ直根ナルモノハ、今渡ルトコ

ロノ廣東人參ニ少シ、異ナレドモ、止血ノ効同ジ、ソノ廣東人參ノ蘆頭ニ節アリテ、甚節參ニ似テ